

基盤としての「土壌」



モニタリングを通して見えるもの～



閉会挨拶を行う
桂川計画課長



閉会挨拶を行う
ボリコFAO駐日連絡事務所長



閉会挨拶を行う
本郷森林整備部長

プログラム

1. 各国からの事例発表

- 日本
森林内の土壌被覆度・劣化診断手法とそのデータ解析 (三浦寛、東京大学特任准教授)
- ロシア
亜寒帯林における伐採作業の土壌への影響 (マリア・パレノバ、林野庁造林・林業機械化研究所)
- ニュージーランド
土壌の提供するサービスと土壌の適正な管理 (ティモシー・バーナード、国立森林研究所)
- 韓国
韓国における森林土壌の状態評価に関する経験 (チョン・セキョン、森林資源研究所)
- メキシコ
日本拠出FAOプロジェクトによる土壌被覆度診断調査 (ハシント・ガルシア、国立森林評議会)

2. パネルディスカッション

- 共同ファシリテーター
永目伊知郎 (林野庁)
ティモシー・ペイン (ニュージーランド国立森林研究所)
各国発表者及びオーストラリア代表と共に、国際土壌年事務局、国連森林フォーラム第11回会合、世界林業会議に向けた提言を議論。

森林減少、気候変動などにより、世界中で土壌の劣化が進行しています。このため、国連では2015年を国際土壌年と定め、持続可能な土壌と土地の管理を促進しようとしています。

一方、急峻な国土の多い我が国において、近年、増加する台風、集中豪雨、津波などの自然災害の被害を防止・軽減する森林の防災・減災機能の重要性が再認識されています。

森林のそれらの防災面での強靱性は、森林生態系の基盤である森林土壌を保全することにより支えられ、我々の安全な生活環境、食料安全保障、生物多様性などの恩恵をもたらしています。国際土壌年の幕開けにあたり、林野庁は、1月29日(木)、国際セミナー「森林の強靱性を支える基盤としての『土壌』」を開催しました。

セミナーでは、森林に関する基準・指標(モントリオール・プロセス)の国内外の専門家から、森林を支え、森林により育まれる土壌のメカニズムやその機能、森林土壌の働きを高める対策や関連するモニタリング手法などについての事例発表とパネルディスカッションを行いました。

